

スポーツ健康学部

FACULTY OF SPORTS AND HEALTH STUDIES



「スポーツ健康学」は、新しい専門領域。 社会的ニーズの高い3つのコースで学びます。

Sport & Body ヘルスデザインコース

運動生理学をベースに、主に身体機能に関わる分野を学びます。

Business Approach スポーツビジネスコース

スポーツ関連ビジネスの企画・立案・運営などについて学びます。

Coaching スポーツコーチングコース

競技者の指導からチーム運営まで、実践的なノウハウを学びます。

資格

「スポーツ健康学」を通して社会に貢献する 様々な資格が取得可能です。

本学部では、独自の「スポーツ健康学」を基盤として、スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、運営・管理、点検・評価できる人材を養成しています。高度な専門能力を身につけた人材を世に送り出すことは社会的使命と考えます。本学部の卒業生が、広く社会で活躍することを支える資格として、卒業後に取得可能な資格を、右記のように設定しています。

取得可能な資格

- 教員免許状「保健体育」(中学校一種、高等学校一種)
- (公財)日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー(養成講習会免除資格)
- (公財)日本スポーツ協会スポーツ指導基礎資格(スポーツリーダー)
- (公財)健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士(受験資格)
- (公財)健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者(受験資格)
- 特定非営利活動法人
日本トレーニング指導者協会 トレーニング指導者(受験資格)

卒業後の進路

スポーツ・健康関連の あらゆる業界でニーズが拡大中。

内閣府が実施した「体力・スポーツに関する世論調査(平成25年)」によると、スポーツ振興に関する要望は、年齢層にあったスポーツの開発普及、指導者の養成、施設整備、スポーツ事業の開催、スポーツを通じた国際交流の振興、スポーツに関する広報活動等、多岐にわたっています。このようなニーズに応える専門知識と技能を身につけられる本学部の卒業生は、各分野で幅広く活躍することが期待されています。

一般企業、スポーツ・健康関連団体

医療機関、福祉施設、プロスポーツクラブ、健康関連企業、スポーツ関連企業、NPO団体、マスコミ企業などで、健康やスポーツに関する企画、管理、指導等の業務

公務員、学校

スポーツ振興と健康づくりのための政策立案、運営、指導等の業務

大学、研究機関

国内外の大学院等に進学し、「スポーツ健康学」の専門研究に従事

ヘルスデザインコース

5ページへ

スポーツビジネスコース

7ページへ

スポーツコーチングコース

9ページへ

スポーツと健康の科学

人は、ほ乳類という動物です。常に動いているのが動物であり、絶えず動きながらその生命活動を維持しています。その動きが不十分であると、様々な弊害が引き起こされます。近年、年齢を問わず、運動量が不足して、様々な問題がクローズアップされています。健康を維持するには、適度に身体運動を維持しなければいけません。

どうして動かないと様々な弊害がでるのか?どうして運動不足な人がいるのか?人に運動させるにどう指導すればよいのか?不足しているのは、柔軟性、筋力、持久力それとも?スポーツで生計を立てるにはどうす

ればよいのか?パフォーマンスを高めるにはどうすればよいのか?等々。こうしたスポーツと健康の問題を考えていくのがスポーツ健康学部です。

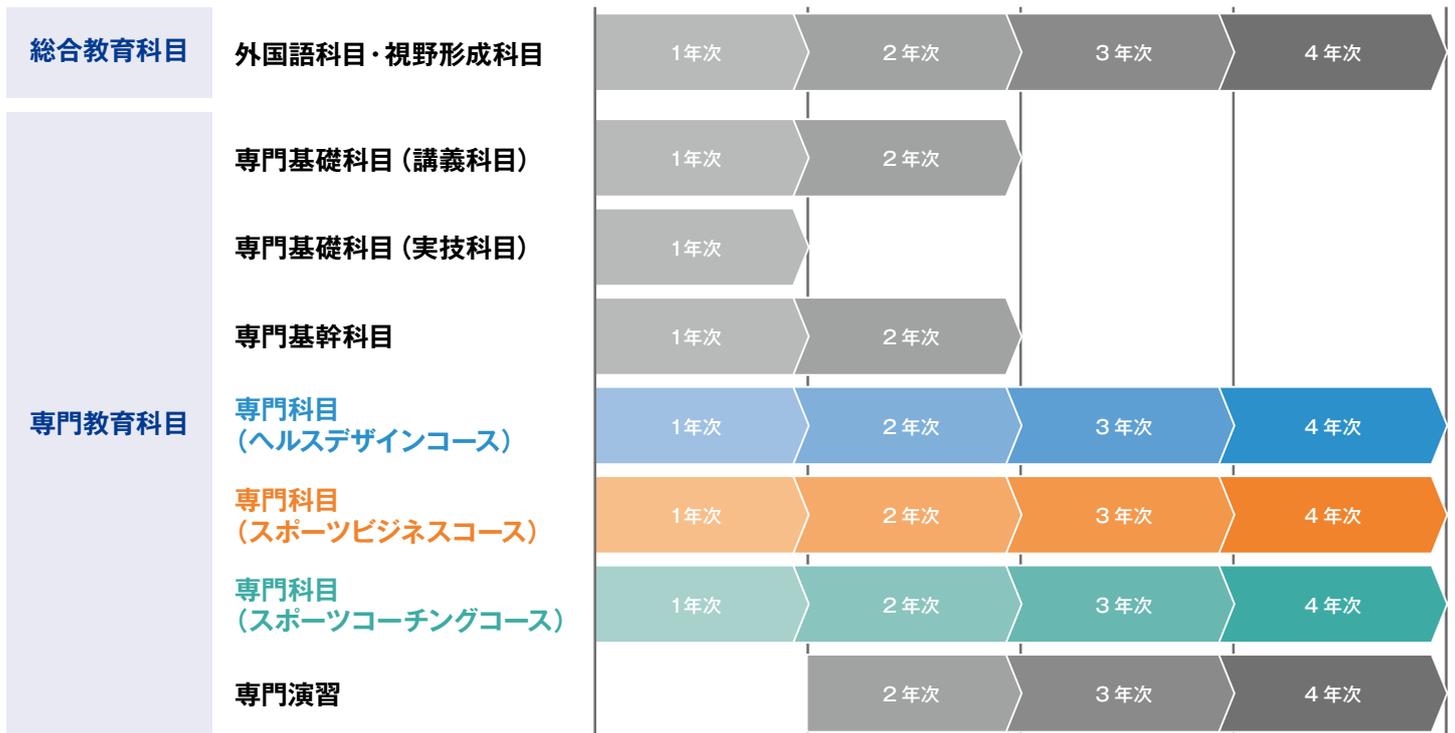
スポーツ健康学部では、「ヘルスデザイン」「スポーツビジネス」「スポーツコーチング」の3コースが用意されています。一緒に、スポーツと健康について検証し、社会に貢献してみましよう。

スポーツ健康学部長 安藤 正志



カリキュラム

多彩な専門家、少人数教育、学習意識を高める科目などの特色があります。



教員紹介

教員と研究テーマ・ゼミナールテーマ
(①専攻 ②研究テーマ・ゼミナールテーマ)

安藤 正志 教授

- ①健康科学
- ②運動学、運動療法

泉 重樹 教授

- ①スポーツ医学、アスレティックトレーニング
- ②体幹(腰部)および骨盤・下肢の動作解析と体幹筋活動解析

伊藤 真紀 准教授

- ①スポーツマネジメント
- ②スポーツにおけるリーダーシップ、女性スポーツ

井上 尊寛 専任講師

- ①スポーツ産業、スポーツマーケティング
- ②プロスポーツクラブのブランド形成、スポーツにおけるCSR

苅部 俊二 教授

- ①コーチ学、スポーツ心理学
- ②身体運動と言語イメージに関する研究

鬼頭 英明 教授

- ①学校保健、健康教育学
- ②子どもの抱える現代的な健康課題の解決を目指した健康教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育

木下 訓光 教授

- ①スポーツ医学、循環器病学
- ②スポーツ心臓、アスリートの突然死、持久系スポーツの医科学、心肺運動負荷試験

清雲 栄純 教授

- ①運動方法論(サッカー)
- ②サッカーを核とした「総合型クラブ」の普及・育成

瀬戸 宏明 准教授

- ①スポーツ医学、整形外科
- ②運動器損傷に対する予防と再生に関する研究

高見 京太 教授

- ①運動生理学
- ②身体活動のエネルギー消費量、子どもの体力・健康づくり

永木 耕介 教授

- ①スポーツ教育学
- ②教材文化論、武道教育論

成田 道彦 専任講師

- ①コーチ学、体育学
- ②指導者の育成と指導方法における研究

ネメシュ ローランド 専任講師

- ①コーチング学、ハンドボールコーチング、体育学
- ②GCA (Game Centered Approach)

林 園子 准教授

- ①体育科教育
- ②体育授業づくり

平野 裕一 教授

- ①スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学
- ②スポーツ科学の活用

山本 浩 教授

- ①コミュニケーション論、ジャーナリズム論
- ②スポーツの構造

吉田 政幸 准教授

- ①スポーツマネジメント
- ②スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動、スポーツスポンサーシップ

学部独自のポイント

新しい学問領域に挑戦する学生のための、ユニークな環境があります。

トップアスリートと 共に学ぶ

スポーツ健康学部には独自の様々な入試制度があります。スポーツ競技での実績を評価するトップアスリート入試もその一つ。世界の舞台で活躍する学生と接し、ともに学ぶことも貴重な経験となるでしょう。



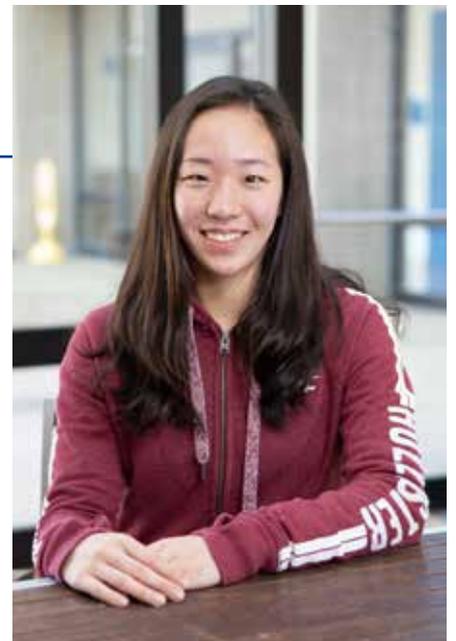
PICK UP student

スポーツコーチングコース4年
トップアスリート入試合格
〔アーティスティックスイミング(旧シンクロナイズドスイミング)〕

河野 みなみ 私立玉川学園高等学校出身

- 2014年から日本代表
- 2014年世界ジュニア選手権：フリーコンビネーション優勝、チーム2位
- 2016年日本学生選手権：ソロ優勝
- 2017年世界水泳選手権：チームとフリーコンビネーションで3位

運動学や解剖学など競技に活かせる知識を習得できるうえ、競技への理解が深い先生方が多いので学業との両立が可能と考え、本学部を選びました。「スポーツコンディショニング論Ⅰ」の授業ではケガの予防や対処法、テーピングの巻き方などを覚えたので、実際に練習で大変役立っています。また「スポーツ心理学B」で教わったポジティブになれる自己暗示なども試合直前に実践しています。この学部には世界的に活躍する選手も多く刺激を受けますし、競技者であるなしに関わらず情熱あふれるスポーツパーソンが多いので、明るく前向きにどの授業も楽しく取り組みます。今後の目標は、日本選手権で全種目(ソロ、デュエット、チーム、コンビネーション)優勝を果たすことと、東京五輪をはじめ世界の舞台で活躍することです。



学部生専用のフィットネススタジオ

学生が快適にトレーニングできる環境を、学生がつくる。

学部棟の中に、学部生専用のフィットネススタジオがあり、空き時間などに気軽に利用できます。施設の管理や運営、トレーニング補助も学生スタッフが中心となって行っており、充実した設備の中、日頃学んだ内容を活かしています。



この他の
充実の設備は
裏表紙を
CHECK!

学びと連動した学生食堂

ヘルシーでおいしい学食は、
栄養学を楽しく実践できる場。

学費に食事代が含まれるため、学部生は現金不要で昼食が食べられます。メニューはスポーツの国際大会でもフードサービスを実施する業者に提供してもらっています。栄養素の表記や健康チェックなどの取り組みもあり、楽しみながら栄養バランス・体づくりの重要性に興味を持てるよう、プログラムされています。



海外課外研修制度 [研修先] アメリカ合衆国・ボイシー州立大学

地域住民に支援される
米国の大学スポーツの実態を見聞。

語学研修、現地の学生との交流、車椅子バスケット体験、アメリカンフットボール観戦など毎日が新鮮でしたが、最も驚いたのは大学の施設です。各チームのスタジアム、専用練習場、研究・実験室、ジムや病院、キネシオロジーを学ぶ施設がありました。またスポーツを「する」人を「見」て「支える」という



構造、つまり最高のパフォーマンスが観客増員やグッズ販売につながり、それが施設・設備を充実させ、ハイレベルな大学スポーツを支えるというサイクルを実感。日本のスポーツ環境や今後の発展について考える好機となりました。



ヘルステデザインコース4年
池原 瞭奈
東京都立小山台高等学校出身

ヘルスデザインコース

運動生理学をベースに、主に身体機能に関わる分野を学ぶ

2017年度ヘルスデザインコース卒業

崎村 和司

三井デザインテック株式会社 勤務

**健康運動指導や実験で培った
考察力や分析力を活かし
環境整備に寄与したい。**

高校では生物の授業が好きで生理学に興味を覚え、健康運動指導士にも関心があったことから、ヘルスデザインコースを選択しました。高見先生のゼミを選んだのは、学外での健康運動教室などを通して実践的な技術・知識が習得できると思ったからです。印象的だったのは、2年次に参加した高齢者対象の健康運動教室で、上手にできず退屈している方に先輩が気づき、最後まで寄り添った結果、楽しんで帰られたこと。現場指導の難さとコミュニケーションの大切さを再認識しました。ゼミでは健康運動教室だけでなく普段の実験も学生主体で行います。先生に軌道修正していただきながら試行錯誤を繰り返すうちに思考力が養われましたし、疑問を探索する楽しさも覚えました。

就職先は住環境を整備する会社です。もともと建築に興味がありましてし、3年次の授業「生活習慣病と身体活動」で、ドイツの自転車専用高速道路やアメリカのスカイウェイについて学び、環境整備が身体活動にも影響を与えることを知ることが志望動機につながりました。入社後は「空間」という分野で、人々のQOL（生活の質）向上に関わっていきたいです。

私の4年間

1年次

多彩なカリキュラムと実績豊富な先生方、様々な資格が取得可能な点に魅力を感じて入学。スポーツクラブのインストラクターのアルバイトを始める（3年まで）。

2年次

ゼミ活動で、大学主催のスポーツフェスティバルや市民大学で健康運動教室を開催したほか、幼稚園での体力測定も実施。学生主体の企画で貴重な体験となる。

3年次

「運動負荷テスト実習」では毎週実験を繰り返し、結果について考察して発表を行った。文献で調査し、自分で答えを導き出すことで、論理的思考力が養われた。

4年次

就職活動は順調で、第一志望の会社に内定。卒業論文のテーマは「体脂肪測定」で、学部内にある3種の体脂肪測定器で得られた数値に差異があるかどうか検証した。



機能解剖学、運動学、運動生理学など身体機能に関する分野のテーマを学びます。さらに身体活動やエクササイズに関する分野を学び、健康増進や疾病予防への理解を深めます。卒業後は、健康管理指導や、スポーツ活動への復帰、疾病や障害から社会復帰を目指す人のサポートなどの仕事で活躍が期待されます。

ヘルスデザインコースでは、身体の構造や機能に関する医・科学的理論を基礎に、ヒトの生命活動としての成長や老化、さらに日常生活活動、運動・スポーツ活動を科学的に学びます。同時に社会の健康関連諸制度に関する知識も修得します。これらの学びにより、医療機関やフィットネスクラブ等の健康増進施設、さらにはトップアスリートのスポーツ現場における運動・スポーツ動作指導のみならず、これらに関する機関や組織の運営にも精通した、あらゆる立場から健康づくり・スポーツ活動を支援できる人材の養成を目指します。

高見ゼミのテーマは、運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ることです。具体的には、ヒトを対象とした事例や学術論文などの情報を幅広く収集すること、体力や身体活動量などの測定や調査の方法を身につけること、データ整理、統計処理を学び、最終的に卒業論文を仕上げます。これらの活動を通じて、人々の健康づくりに関わる様々な場面で活躍できるようになることを目標としています。

高見 京太 教授
[専門分野] 運動生理学

スポーツリハビリテーション実習

スポーツ障害の治療法を実地で体験

スポーツ障害の多くは誤ったトレーニング方法や偏ったフォームにより引き起こされます。肩、肘、腰部、体幹、骨盤、股、膝、足部関節に多発する代表的なスポーツ障害を学び、その発生メカニズムや機能診断方法、リハビリテーション治療法を体験しながら学んでいく科目です。実技が中心の実習科目ですので人数制限を設け少人数制で学びます。この科目を履修するには機能解剖学、リハビリテーション概論、運動療法総論など基礎的な医学系の科目を履修しておく必要があります。



フィットネス・トレーニング実習

自ら体験し、指導方法までを学ぶ

フィットネス・トレーニング実習では、学生自ら様々なエクササイズを体験して各エクササイズの意義・目的・方法をまず自身の身体を通して学びます。受講している学生の皆さんはこれまでのスポーツ経験の中でウェイト・トレーニングやエルゴメータを使った有酸素エクササイズ等の経験は多いのですが、各エクササイズのねらいに基づいて、自身が指導する場面でどのようにそのエクササイズを相手に伝えるかまでを実習を通して学んでいることは多くありません。まず自分で新しいエクササイズに取り組んで得られる発見が人に伝える際にも役立っているようです。



教員からのメッセージ

スポーツへの関心は老若男女問わず高まっていますが、その反面若者の心身育成や健康寿命の増進をどのように改善していくかという問題も生じています。このため科学的な根拠に基づき健康やスポーツに関する様々な知識について4年間学習をしてもらえればと思います。スポーツ健康学部というメリットを活かして、スポーツを通して社会に貢献したいと思っている学生をお待ちしております。

ヘルスデザインコース 瀬戸 宏明 准教授
[専門分野] スポーツ医学、整形外科



スポーツビジネスコース

スポーツ振興やスポーツ関連ビジネスの企画・立案・運営などを学ぶ

2017年度スポーツビジネスコース卒業

天野 薫

かながわ信用金庫 勤務

説得力ある発表を繰り返した結果、
実生活や仕事でも役に立つ
論理的思考力が身につきました。

1年次に受講した「スポーツビジネス論I」の内容に興味を持ち、2年次から井上先生のゼミに入りました。統計学の視点を中心にスポーツビジネスを学ぶゼミで、Jリーグの観戦者調査も実施しました。卒業論文のテーマは「大学生におけるスポーツ観戦への興味に関する研究」です。プロスポーツチームの収益に関わる研究で、多摩キャンパスの学生500人へ質問紙調査を実施し、大学生が観戦を検討する際に重視する要因と、観戦への興味に影響を与える要因を明らかにしました。

ゼミの授業で印象に残っているのは、課題の発表後に受けるゼミ生や先生からの質問です。そんな視点もあるのかと多角的に考えることの重要性に気づかされましたし、先生からは何度も「その発言の根拠は？」と説得力のある発表が求められたので、論理的な考え方が身につきました。これは日常生活でも就職活動の面接でも活かしましたので、その点は成長できたと感じます。就職先は金融機関です。ゼミで習得した論理的思考を活かし、根拠のある筋道の立った説明をして、お客様との信頼関係を築いていきたいと思えます。

私の4年間

1年次

スポーツ観戦が大好きで、将来プロスポーツチームで働くことを目標に入学。よさこいのサークルに所属し、日本文化普及活動の一環でフィンランドでも演技。

2年次

プロ野球チームでインターンシップを経験。入会促進活動を担当し、現場を肌で感じる事ができた。部活動では北海道のよさこい祭りなど各地のイベントに参加。

3年次

「マーケティングリサーチ実習」で実際にデータを集めて分析することにより、統計データからスポーツビジネスを考察するという2年次の学びを実践。

4年次

就職活動では迷いもあったが、インターンシップでお客様と接した経験を活かせる金融機関に内定。卒業論文では研究をまとめ上げ、達成感を感じた。

※科目名は2017年度のもので、2018年度より一部変更があります。



スポーツ振興のための政策、事業としてのスポーツ運営・経営の方法などを対象に学びます。スポーツに関連したマネジメント、マーケティング、メディア戦略、イベントを通じたプロモーションなどのスポーツ普及・振興策を計画・運営・評価ができる専門能力を身につけ、非営利組織、民間企業で活躍できる人材を養成します。

「スポーツビジネス」という言葉を最近よく耳にするようになりましたが、スポーツを取り巻く環境は複雑で実態を把握することがとても難しいのが現状です。この「スポーツビジネスコース」は、複雑なスポーツとビジネスの関係を、ビジネスの視点で紐解いていくことを目的としたコースです。所属する教員は4名で、それぞれ専門の領域を持っています。具体的には、スポーツとマーケティング、スポーツ組織のマネジメント、スポーツとメディアという視点でスポーツとビジネスを切り取っていきます。

井上ゼミナールでは、広がりつつあるスポーツに関連するビジネスの特徴や問題点を把握し、合理的かつ科学的な根拠をもって解決の糸口を導くための知識や能力の習得をテーマに活動しています。具体的には、プロ・スポーツリーグでの調査や現場実習などを通して、理論だけでなく、肌でスポーツを製品として扱うことの難しさや楽しさを感じてもらいながら、スポーツビジネスを学ぶ意味や意義、スポーツの価値を高めるために自分ができることは何かについて、深く考察してもらいたいと思っています。

井上 尊寛 専任講師

[専門分野] スポーツ産業、スポーツマーケティング

マーケティングリサーチ実習・マーケティングリサーチ演習

Jリーグを通してマーケティングを学ぶ

ビジネスを実践していくうえで重要なことは、合理的な根拠をもって答えを導くことです。スポーツビジネスにおいては、スタジアムに来場する観戦者や施設に訪れる会員、商品を購入する消費者がどのような人で、何を求めているのかを知ったうえで、マーケティング戦略の策定を行います。この授業では、その答えを自ら導くための方法として、アンケート調査や分析の手法を詳しく学んでいきます。また、実習の現場として、Jリーグの試合で調査を実施しています。



スポーツ産業論

スポーツ産業とは何か？

スポーツ産業にはスポーツ用品産業、スポーツサービス産業、スポーツ施設産業、そしてそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれます。この授業ではこれらの産業領域の市場規模、特性、重要概念などについて事例を踏まえながら学習するとともに、スポーツ産業界が直面する課題や将来的な発展の方向性について履修者の皆さんと一緒に考えていきます。



教員からのメッセージ

国際的なメガスポーツイベントや選手の海外での活躍にみられるように、スポーツの国際化が進んでいます。スポーツマネジメントの観点から、スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）することが重要になっています。将来は国際的にスポーツビジネスで活躍したいと思っている学生をお待ちしています。

スポーツビジネスコース 伊藤 真紀 准教授

[専門分野] スポーツマネジメント



スポーツコーチングコース

競技者の指導からチーム運営まで、実践的なノウハウを学ぶ

2017年度スポーツコーチングコース卒業

小阪 光明

東京都（保健体育教員）勤務

模擬授業で鍛えられた指導力を
教育現場で存分に発揮し
スポーツの楽しさを伝えたい。

教職に就いて野球部の顧問になることを目標に入学しました。適切な指導方法やトレーニング方法を学ぶためにスポーツコーチングコースを選択し、模擬授業を通して自分自身の授業力を高めたいと永木先生のゼミに入りました。ゼミでは中・高生を対象にした保健体育の授業計画を立て、一人ずつ模擬授業を行います。その後、ゼミ生から様々な視点の助言をもらい、先生からも講評をいただいて、改善した授業計画を作成します。ゼミ活動を通して教員になる自覚が強まり、指導力が養われたと同時に、ゼミ長を務めたことで組織をまとめる大変さを経験し、人間的にも成長できました。

思い出深いのは3週間の教育実習です。生徒指導の難しさ、自分の未熟さを痛感し、ストレスで4キロも痩せてしまいましたが、それ以上にやりがいを感じ、教職志望が強まりました。教員採用試験に向けた勉強は思った以上に大変でしたが、周囲のサポートのおかげで合格できました。卒業後は大学での学びを存分に活かしながら、「生徒全員が楽しめて、運動が好きになる授業」を実践していきたいです。目標は、「日本一笑顔の先生」です。

私の4年間

1年次

入学後ガイダンスで「教職を目指すなら本気で取り組むように」と言われ、身が引き締まる。第二体育会準硬式野球部に入学し、高校とのレベルの差を実感する。

2年次

「保健体育科教育法Ⅱ」で初めて模擬授業を行ったとき、パニックになって言葉が出なくなるという辛い経験を。部活動では30年ぶりの2部昇格を果たす。

3年次

「保健体育科教育法Ⅲ」で、生徒の安全管理の重要性や優先順位を考えた授業展開を学ぶ。勉強との両立で苦労した部活動では、30年ぶりに2部優勝を果たす。

4年次

先生の紹介により埼玉県の公立学校で行われた臨海学校のコーチを務める。高校生への水泳指導は貴重な経験となった。東京都の教員採用試験に無事に合格。



競技力向上のための科学的なトレーニング方法や運動習慣を指導するための方法を学びます。豊富な学識や技術の伝達能力、チーム運営の基盤となる資金調達などの実務能力、スポーツを巡る倫理や社会貢献など、多角的視野で体験習得。チャンピオンスポーツ、生涯スポーツ、教育現場におけるスポーツ指導者を育成します。

スポーツコーチングコースでは、スポーツ健康学を広い視野から捉えたうえで、深い知識、確かな実践力、高い表現力・コミュニケーション力、優れた品格、そして他者への尊敬や思いやりのあるスポーツ指導者の養成を目標としています。スポーツ指導のフィールドには、トップアスリートやチャンピオンスポーツの指導、健康スポーツ指導、学校体育の指導など様々が想定されますが、本コースはそのいずれにも対応しうるプログラムを用意しています。

永木ゼミでは、中学校・高等学校における学校体育教員の職に就くことを目標とし、現場を想定した演習を中心に取り組んでいます。特にゼミ生が教師役と生徒役に別れて行う模擬授業では、授業計画を立て (Plan)、それに沿った授業を実施し (Do)、全員による振り返りを行い (Check)、次へ向けて改善し展開していく (Action) というサイクルを体験することによって、確かな実践力を獲得していける場を設けています。合言葉は“Aim to become a Great Teacher”です。

永木 耕介 教授
[専門分野] スポーツ教育学

サッカー実習・サッカー指導論演習

サッカーというゲームの方向性を知る。

指導者は選手を昨日のサッカーに向けて準備させるのではなく、将来のサッカーに向けて準備させなくてはなりません。今、世界で何が起きているのかを知り、初心者から熟練者までレベルに応じた指導法を学びます。



野外教育実習 (スノー)

雪上ならではの野外教育を学ぶ

ウィンタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を習得するとともに、野外教育の指導者として活動できるための基盤を身につけます。大学での講義とスキー場での実習 (実技、ワークショップ) により構成されます。



教員からのメッセージ

スポーツの果たしている役割は世界的に幅広く、重要なものになっています。学ぶ上で運動が好きで、様々なスポーツに興味があることが大切だと思います。スポーツ健康学部の学生は、スポーツや健康科学に関する広範な知見を学びます。スポーツの実践力向上への意欲はもとより、スポーツや体育の指導者に必要な知識、技術および能力の修得について強い関心を持つことが望まれます。将来スポーツに関わりながら、海外でも通用する人材になりたい学生をお待ちしています。

スポーツコーチングコース **ネメシュ ローランド** 専任講師
[専門分野] コーチング学、ハンドボールコーチング、体育学



在学生の学び

スポーツ健康学部では、2年次より3つのコースから1つを選び、学びを深めます。ここでは各学年・コースごとにどのように学んでいるのか、学生を紹介しします。(各コースの選択は、1年次の12月に実施します。) 4年次はそれぞれの学びを卒業研究へ発展させます。

Q1

1年間のスポーツ健康学部の授業で、学んだことや理解が深まったことは何ですか？

Q2

1年間を振り返って、授業以外で得たことや学んだことは何ですか？

1年次 ヘルステデザインコース
現2年

柳澤 明希

私立栄東高等学校出身



A1. 「機能解剖学」「生理学A」の授業を通して人体の構造や生理機能について深く学ぶことができました。そのおかげで競技(アーティスティックスイミング)やトレーニングを行う際、今どこの筋肉を使っているのか、何を鍛えるべきなのかを意識しやすくなり、技術力向上につながりました。また「スポーツコーチング論I」では学生同士で指導を実践し、技術を伝えたりやる気を起こさせることの難しさを実感しました。

A2. 空き時間にフットサルコートなどでスポーツを行い、学生同士の距離が縮まりました。またフィットネススタジオでは先輩方と交流を深めることができ、2年次からはこの施設の運営スタッフとして活動しています。今後は競技力向上とトレーナーの資格取得を目指し、リハビリテーションや栄養についての知識を深めていきます。

※科目名は2017年度のもので、2018年度より一部変更があります。

2年次 ヘルステデザインコース
現3年

山下 千絵

私立田園調布学園高等部出身



A1. 「スポーツコンディショニング論I」では、人体の仕組みからトレーニング方法、テーピングの巻き方などを実践的に学習し、自身の陸上活動にも役立ちました。ゼミはスポーツ心理学を専攻。1年次の「スポーツ心理学A」で学んだ知識を活用し、様々なジャンルの選手における競技中の心理状態を統計的に分析・考察しました。

A2. 交通事故に遭った10歳の時から義足を使用していますが、1年次に「トップアスリート論」で義足アスリートの鈴木徹選手の話聞いたことを契機に競技用義足に挑戦。走ったときの風を切る感覚、地面を蹴って飛び跳ねる感覚を10年ぶりに思い出し、0.1秒でも速く走りたいと思いました。2年次の5月からは陸上競技の短距離種目の練習を本格的に開始。目標は東京パラリンピック出場です。

※科目名は2017年度のもので、2018年度より一部変更があります。

3年次 スポーツビジネスコース
現4年

浅井 陵

東京都立桜修館中等教育学校出身



A1. 「スポーツビジネス論Ⅲ」では、スポーツ組織とスポンサーシップについて学習し、グループごとにスポンサーの集め方などの企画書を作成、発表しました。「マーケティングリサーチ実習」では、Jリーグの試合会場で観客を対象に来場目的等を問うアンケートを配布し、データを分析してまとめたことが印象に残っています。ゼミでは4年次に作成する卒業論文に必要な調査や分析を実施しました。

A2. 就職活動に向けて短期インターンシップ(商社やホテルなど)や学生セミナーに参加。ゼミで学んだビジネスマナーが活かされました。また学内の筆記試験対策講座や面接対策講座は何度も受講。多摩キャンパスのほか自宅に近い市ヶ谷キャンパスのキャリアセンターにも通い、細かい指導を受けたことが就職活動に大変役立ちました。

※科目名は2017年度のもので、2018年度より一部変更があります。

4年次 2017年度
スポーツコーチングコース
卒業

吉田 拓也



A1. 「バレーボール指導実習・演習」では、実践しながらバレーボール競技力だけでなく指導力も向上させることができ、大変有意義でした。将来、教師や指導者としてスポーツの楽しさを伝える仕事に携わるなら、まずは自分が実践者であるべきだと思うからです。「指導者たるもの実践者たれ」の気持ちを胸に、卒業後はアスリートを目指す子どもたちが通うトレーニング教室で大学の学びを存分に発揮します。

A2. フィットネススタジオの運営スタッフ長として、新入生を対象にしたイベントを開催したことが一番の思い出です。運営は学生中心なので自分たちでゼロから企画し、何度も打ち合わせを重ね、フィットネススタジオの器具の使用法や体幹メニューなどを半年かけて準備したので、好評を博したときは達成感があり、自信になりました。

※科目名は2017年度のもので、2018年度より一部変更があります。

取得できる資格紹介

アスレティック トレーナー 資格受験中

※客観的試験合格
※実技・論述試験結果待ち

2017年度
ヘルスデザインコース
卒業
犬走 渚



充実した設備を積極的に活用することで
知識が定着し、スキルも習得できました。

資格取得にはスポーツ傷害やトレーニング科学、栄養学など幅広い知識が必要なので、専門書が豊富な資料室はよく活用しました。またフィットネススタジオで筋肉や関節の動きを意識しながら実践することにより、解剖学などの理解が一層深まりました。卒業後は大学院でスポーツ科学をさらに学び、将来はジュニアアスリートからトップアスリートまでをサポートする施設を学友と創設したいと考えています。

健康運動 指導士

2017年度
ヘルスデザインコース
卒業
永澤 愛海



座学だけでなく実習の授業が多いので
内容理解に大変役立ちました。

健康運動指導士は、生活習慣病の患者さんなどに対して効果的な運動プログラムを作成し、健康づくりに携わります。試験は生理学や医学、バイオメカニクス、運動理論など多岐にわたって出題されるので難しいのですが、本学部は実習が多いので内容理解に役立ちました。また実際に有資格者が活躍する病院で実習を行ったことも貴重な経験でした。目標に向かって諦めずに努力した経験を糧に今後も自己研鑽に励みます。

アスレティック トレーナー 資格受験中

※客観的試験合格
※実技・論述試験結果待ち

2017年度
ヘルスデザインコース
卒業
横川 祐介



ゼミ仲間と切磋琢磨しながら学び
実践も重ねて難関資格に挑みました。

将来、プロスポーツチームのトレーナーとして外傷・障害の予防やアスレティックリハビリテーションに携わることを目標にこの資格を目指しました。勉強は大変でしたが、ゼミで試験対策を行っていただけ、同じ目標を持つ仲間と学べたことは有益でした。またサッカーチームのトレーナーとして自分たちでプログラムを作成し、実践した経験は自信になりました。夢を叶えるため卒業後は鍼灸の資格も取得予定です。

中・高保健体育 教員免許取得

2017年度
スポーツコーチングコース
卒業
駒形 友里



様々な競技に触れた体験を活かし
生徒全員が楽しめる授業を展開したい。

念願が叶い、神奈川県中学校教員採用試験に合格しました。最初は試験勉強法がわからず不安でしたが、教職課程センターの方に勉強の流れや要点を教えていただき、先輩からもアドバイスを受けられたので心強かったです。また授業で多様な競技を体験できたことは教育現場で大いに役立ちそうです。今後は運動が苦手な生徒も楽しめる授業を展開すると同時に、何事にも全力で取り組むことの大切さを伝えていきたいです。

スポーツ健康学部だから見えてくる進路がある。



大野 菜奈

三井住友海上火災保険株式会社 勤務 (2017年度ヘルステデザインコース卒業)

勉強も部活動も懸命に取り組んだことが成長につながりました。

大学ではスポーツ心理学、スポーツ経済学、栄養学などスポーツを多彩な角度から学び、視野が広がったので、就職活動も当初は業種を限定せず、幅広く活動していました。三井住友海上に決めたのは、損害保険業界に興味があり、さらに当社勤務の部活動(バスケットボール)の先輩に会社の様子を伺い、魅力を感じたからです。4年次は卒業論文や部活動で多忙を極めていたので就職活動は大変でしたが、キャリアセンターの方にエントリーシートを添削していただいたり、友人・先輩からアドバイスをもらったことが大変参考になったので感謝しています。入社後は授業や部活動で培った積極性やコミュニケーション力を活かして営業職に励むとともに、先輩と同様、実業団(バスケット部)でも活動する予定です。スポーツ健康学部には、目標に向かって全力で取り組む人が多いので刺激を受け、成長できます。皆さんもこの学部で有意義な学生生活を送ってください。

塚本 鷹秀

文部科学省 勤務 (2017年度ヘルステデザインコース卒業)

夢はスポーツ庁でスポーツの魅力を発信することです。

スポーツに関する多様な分野の勉強をしたいと考え、本学部に入学。スポーツと健康の問題、社会的側面など多岐に渡って学ぶうちに、次第にやりたいことが明確になっていきました。文部科学省を志望したのは、スポーツ庁で活躍したいと思ったからです。本格的に国家公務員試験対策に取り組んだのは3年次の春から。英語が必修だったので授業で培った英語力が活かせましたし、公務員志望者向けの模擬面接を利用したことも大きな力となりました。「上司と対立したときどうするか」という模擬面接のときと同じ質問を本番で尋ねられたので、自信を持って答えることができ、それが合格につながったと思います。夢は皆がスポーツに参加できる社会を創り、スポーツが楽しいと思える未来を創造することです。そのためにオリンピック・パラリンピックなどの国際大会に携わったり、スポーツが抱える社会問題に取り組むことでスポーツの価値を高め、その魅力を発信したいと思います。

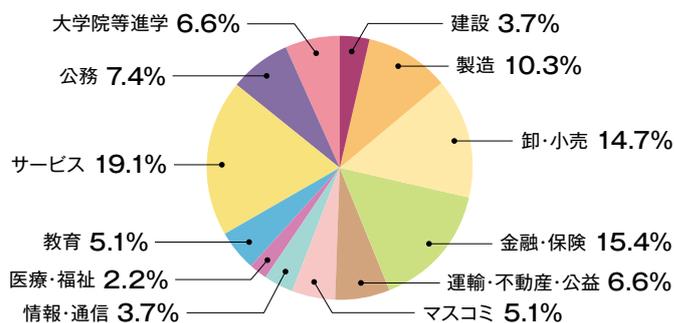


スポーツ健康学部生の進路について

スポーツ健康学部生の進路は多種多様。
スポーツ業界だけでなく、
各種分野で活躍しています！

※小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

スポーツ健康学部進路先業種割合 (2017年度 卒業生)



各分野に羽ばたく卒業生の声

大尻 慶一郎

株式会社横浜銀行 勤務 (2017年度スポーツコーチングコース卒業)

情報戦である就職活動を乗り越え、第一志望に就職！

就職活動は多業種を知る絶好の機会と捉え、俯瞰的に様々な業界を調べました。後から「あの業界も見ておけば良かった」と後悔したくなかったからです。就職活動ではいかに多くの情報を入手できるかがカギとなるので、自分の足を使ってアクションを起こし、同期や先輩から積極的に話を聞きました。その結果、多様なものの見方・考え方に触られたので、視野が広がり、楽しく充実したものとなりました。横浜銀行を選んだのは、3年次の夏にインターンシップでお世話になったとき、人事の方が好印象で、行風も自分に合っていると感じたからです。また地元で就職し、地方創生に寄与したいという思いにも合致していました。心強かったのは、横浜銀行勤務の学部の先輩から丁寧なアドバイスをいただけたことです。内定を受けて、証券外務員第一種の資格も取得しました。卒業まで私を支え続けてくれた家族をはじめ多くの方々に感謝し、今後も学びを忘れず社会に貢献していきたいです。



武田 千怜

株式会社産業経済新聞社 勤務 [サンケイスポーツ記者職] (2017年度スポーツビジネスコース卒業)

パラスポーツの迫力や感動をより多くの方に伝えたい。

マスコミ志望が強まったのは、「トップアスリート論」や「スポーツ取材論」の授業で、豊富な取材経験がある先生やトップアスリートから直接話を聞いてからです。特に病気を乗り越えてメダルを獲得した水泳の五輪選手やパラリンピック5大会出場の義足の走り幅跳び選手の話は感動的で、TVではわからない選手の裏側を知ることがスポーツの見方が変わることを実感。そして、多くの方にそれを伝えたいと思いました。東京オリンピック・パラリンピックに関わるという目標をもって就職活動に臨んだ結果、スポーツ記者として採用されました。特に興味があるのは大学で出会った障がい者スポーツです。ゼミでブラインドサッカー体験会を開催したり、アメリカ海外研修中に車椅子バスケットを体験したことなどを活かし、パラスポーツの魅力を記事にしたいです。スポーツ健康学部は目標に向かって努力する学生をサポートする環境が整っていますので、本学部で夢をつかんでください。



主な就職先リスト

- 大和ハウス工業 ●日清オイリオグループ ●ミツカン ●山崎製パン ●大塚製薬 ●富士通 ●テルモ ●岩谷産業
- みずほフィナンシャルグループ ●三井住友銀行 ●三菱UFJ銀行 ●三井住友海上火災保険 ●第一生命保険
- ANAエアポートサービス ●ソフトバンク ●JTBグループ ●日本旅行 ●美津濃 ●名古屋テレビ放送
- ゴールドウィン ●セブン-イレブン・ジャパン ●ニトリホールディングス ●商工組合中央金庫 ●千葉銀行
- 横浜銀行 ●日本通運 ●パラマウントベッド ●SSK ●ゼット ●大正富山医薬品 ●文部科学省

大学院進学 ●法政大学大学院 ●東京大学大学院

「スポーツと健康」というテーマにふさわしい 気持ちのいいキャンパス。

緑豊かな美しい環境にある多摩キャンパス。その中でも高台にあるのが、スポーツ健康学部棟です。ゆとりを持って設計された空間には、専門性の高い学習に対応した施設・設備が充実しています。屋内・屋外のスポーツ施設では、多くの学生が休憩時間などにスポーツを楽しんでおり、スポーツ健康学部ならではの光景が広がっています。



スポーツ健康学部棟（多摩キャンパス）



食堂



学部棟内共用スペース



情報カフェテリア



個人ロッカー



運動実習室



リハビリテーション実習室



運動生理学実習室



陸上競技場

入試に関するお問い合わせ：入学センター TEL:03-3264-9300

法政大学 多摩キャンパス 〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

京王線 ●新宿駅から準特急で40分(急行で50分)、めじろ台駅下車、バスで約10分(「法政大学」下車)

JR線 ●中央線：新宿駅から快速で54分(特別快速で42分)、西八王子駅下車、バスで約22分
●横浜線：新横浜駅から38分、相原駅下車、バスで約13分(「法政大学」下車)

<http://www.hosei.ac.jp/sports/>

法政大学 スポーツ健康学部

検索

<撮影協力>法政大学スポーツ健康学部の皆さん

